様式 4_助成事業実施報告書

2019 年　12 月　6 日

助成事業実施報告書

団体名　県営住宅下神白団地自治会

代表者・役職名　氏名　会長　遠藤　一廣

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書（精算報告書以外）は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真（2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します）を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

名称　自然災害の知識習得と防災訓練・避難所運営（炊出訓練）

2. 実施団体の概要（創設の経緯、創設時期＝法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで）

県営住宅下神白団地自治会は、東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の原発事故により、被災地域から避難した復興住宅団地住民で、当初は富岡町 80 世帯・大熊町 35 世帯・双葉町 25 世帯・浪江町 60 世帯からの避難者で 200 世帯が居住し会員の生活の向上、地域福祉の増進のため、会員相互の融和協調、共通の利益等の確保並びに地域との相互交流を図ることを目的に設立した。自治会設立により、避難生活を送る住民同士の親睦を図り、生活環境の整備、モラルやコミュニティを目的とする自治会活動を行う自治会です。

現在は、富岡町・大熊町・双葉町・浪江町からの避難者で 154 世帯 248 人が居住しており入居者の 62.9%は 65 歳以上で、154 世帯中 85 世帯が一人暮らしの世帯で高齢者の多い団地です。

3. プロジェクトの目的とその背景（※応募申請書に記載のものでも可）　250文字程度まで

当県営住宅団地は、いわき市から津波の第一次避難ビルに指定されました、また、県のいわき地区県営住宅管理室から、いわき市の県営住宅で一人暮らし世帯の火災が発生し、火災の注意要請がありました。

当団地の住民は、原発事故による避難者で高齢者世帯が多く、いつ自然災害が避難先で起こるか予測不可能なことから、当団地自治会で団地住民の防災意識の再確認を図るため、自然災害の正しい知識を習得し、防災訓練・炊出し訓練を計画しました。

団地内の「自助、共助」を図れるように備えるため、団地自治会役員・代議員を中心に団地住民を含め、防災科学技術研究所を視察し、自然災害の知識習得を図り、学んだ研修を基に、団地で防災訓練を実施、当団地は津波の第一次避難ビルに指定されていることから、避難所運営を図るため、炊出し訓練も併せて実施することにしました。

4. プロジェクトの内容（※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可）　300文字程度まで

11月8日　防災科学技術研究所の見学・視察研修には、団地自治会の役員・代議員を中心に団地住民を含め、参加者は、団地住民及び支援者の 45 名が参加しました。

防災科学技術研究所では、地震・津波・山崩れ・地滑り・豪雨よる浸水などの災害のビデオによる説明と東日本大震災などの地震体験を地震の映像と地震ザブトンによる実際の揺れを体験しました。また、大型耐震実験施設の現場や大型降雨実験施設による災害現場の状況なども視察し災害の恐ろしさを再認識させられました。

11月15日　防災訓練・避難所運営炊出し訓練には、当団地住民と市営永崎団地住民及び地区住民の95名の参加となり、原発事故で双葉郡から避難し、帰町出来ない県営下神白団地住民と隣接している団地で地震津波により転居してきた市営永崎団地住民及び地元の永崎地区・下神白地区住民と様々な環境の違いのコミュニティが存在し、なかなか交流が困難な状況であったが、今回の防災訓練・避難所運営（炊出し訓練）を開催することで、地域住民も参加してもらい、訓練を通して団地自治会が共助を目的に団地全体で高齢者の見守りを行い、高齢者と住民の意思疎通を図り、高齢者対策の共通認識を持つ防災訓練・避難所運営訓練の炊き出し訓練を開催することが出来ました。

11月29日　成果報告会には、団地役員・代議員のほか団地住民の参加もあり、参加者が20名。参加者から地震災害に備えの大切さが再認識されたとの話がありました。また、災害発生時には、団地全体で高齢者・単身世帯者の安否確認の必要性があると共助に繋がる意見もあり、団地内の防災意識醸成を考える機会になりました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』　300文字程度まで

防災科学技術研究所の見学・視察研修では、団地の立地が海に近いため地震・津波には、敏感であり東日本大震災の地震再現体験を通し防災の大切さと防災意識の重要性がわかりました。

耐震実験では、地震ザブトン体験と同時に映像が見学でき、地震の恐ろしさが再認識させられました。

耐震実験施設では、実験現物と耐震実験映像が見学でき耐震構造の重要性がわかりました。

大型降雨実験施設の現場では、山崩れや土石流実験の跡地を見学出来、自然災害の恐ろしさが感じられました。

防災訓練では、各部屋の緊急通報装置と団地各棟設置の火災報知器の使い方を実際に体験して、取り扱いの理解を深めました。

炊き出し訓練は、参加者が炊き出し用鍋の設置から炊飯の準備、ご飯を炊きあげ、カレーを作り、各自で炊きあがったご飯にカレーを盛り食しました。炊き出し訓練が初めての人が多く、鍋に炊飯袋を入れてご飯が炊けることを体験し大変好評でした。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など　300文字まで

防災訓練と炊き出し訓練には、特に単身世帯と高齢者の参加を呼びかけ、多数の参加者があり、参加者が自分で作ったご飯をカレーで食べ、参加者からは、良くご飯が炊けおいしく食べたとの話があり、食事交流会にもなって、団地住民の親睦やコミュニティ形成の活動が出来ました。

防災訓練では、自分の部屋の緊急通報装置の使い方がわかり、緊急時の連絡等に利用可能との話もあり有意義でした。また、火災報知器は、直接消防署と繋がっていると思っていた人が多かったが今回の防災訓練で火災の時は、119番通報が必要なことも知りました。

今後も多くの団地住民に防災への興味・関心を持ってもらい、地域住民との協力を図り安心・安全な地域つくりを目指していきたいです。

今回の行事を一過性のものとせず、自治会が主体となり継続して防災訓練等を行い、各々が防災への意識醸成を図りたいと考えております。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。	参考資料あり

防災科学技術研究所視察研修

防災科学技術研究所視察研修

炊き出し訓練

炊き出し訓練

防災科学技術研究所見学バスツアー

11月8日(金)
8:00 集会所集合

タイムスケジュール
8:15　下神白団地出発
9:45～10:00　休憩(友部SA)
10:35～11:30　予科練平和祈念館　見学
12:00～13:00　昼食(ホテルグランド東雲)
13:15～15:00　防災科学技術研究所　見学
15:45～16:15　休憩(友部SA)
17:45　下神白団地到着予定

参加希望の方は、下記の申込書の必要事項を記入し、10月25日(金)まで各棟管理人のポストへ投函してください。

この事業は真如苑の「市民防災・減災活動公募助成事業」の支援を受けています。

主催：下神白団地自治会　協力：NPO法人みんぷく

このチラシはNPO法人みんぷくの協力のもと作成いたしました。
NPO法人みんぷくは、国の支援を受けて福島県が実施している「生活拠点コミュニティ形成支援業務委託」を受けて活動しています。

----------キリトリ----------

下神白11/8

防災科学研究所見学バスツアー申込書

部屋番号：　　号棟　　号室

名前：